二宮神社　二宮町３丁目

●「二宮町（にのみやちょう）」の由来

祭神は天忍穂耳尊（あめのおしほみみのみこと）を主祭神とし、生田北向八幡大神を合祀。社伝によれば、生田神社が砂子山に祀られていた時、大水で流され、神主の刀弥七太夫（とねしちだゆう）が御神体を背負い、この地に難を避けた。そのため後に生田の裔神（えいしん）八社の一つをここに祀ったのが起源という。明治時代の中頃、筒井、熊内、中尾、生田、中村、脇浜、小野新田の七ケ村の神社を合祀し総氏神としたが、後にもとに復した。ただ、生田村の八幡社だけは今日でも合祀されている。

また、境内には「御幸石（みゆきいし）」がある。これは刀弥七太夫が生田神社の御神体を背負って難を避けた際に、自分の家の庭石の上に一端安置したことから、この石を御幸石と名付け、後にこの神社の境内に置いたと伝えられるものである。

阪神大震災で落ちた正面の鳥居の石の島木と笠木の部分（鳥居の上部）は、従来より軽くするため鉄骨にスチールを巻いて石の吹き付け塗装を行って復興した。

なお、二宮町はこの神社があることにちなむ。

御幸石

場所：神戸市中央区二宮町３丁目 1-12

●「琴ノ緒町（ことのおちょう）」の由来

紀貫之が布引の滝を訪れた時に詠んだ歌「松の音を琴に調ぶる山風は　滝の糸をやすけて弾くらむ」と、旧生田村の字名「ことのお」を結びつけて町名にしたという。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著